



30th Anniversary 2015

新しいステージへ。新潟市美術館の30周年。

Press Conference

JULY 1, 2015

I 改修工事のポイント。

昨年8月着工、10月～今年7月までの長期休館期間に、空調機・給排水設備・屋上防水の補修・改修に加え、下記の観点から施設を改修しました。

■ 作品にやさしい美術館に。

展示空間には発色を吟味した、最先端のLED照明を導入。

展示壁面も改修し、一層安全かつ見やすい展示環境に。

空調設備のオーバーホール、八トン消火設備の更新を行い、日常管理及び非常時のシステムを整え作品の保存環境の向上と維持に努めます。

■ もっとくつろげる美術館に。

美術鑑賞の合間にご家族やご友人と一休みできるスペースを新設します。

その名もラウンジN（エヌ）。持ち込みのちょっとした軽食もOK。

気軽な造形プログラムに参加したり、フリーWiFiでネットに感想をつぶやいたり。

本のラウンジではくつろぎのインテリアで美術書に親しめます。「ディレクターズ・チョイス」など館長オススメ本のコーナーなど、本の入れ替えも予定していますので何度訪れても楽しめます。美術館での1日をゆったり過ごす、新しい楽しみ方を提案します。

■ 誰もが快適な美術館に。

駐車場からのアプローチや喫茶室の段差を解消、トイレもより快適にリニューアル。

コインロッカーを増設し、講堂の視聴覚設備も刷新してさらに使いやすくなります。

館内サインシステムは当館ロゴも手がけた服部一成によるデザインに。

統一されたイメージで、わかりやすく、軽やかなサインでお迎えます。

みどころ

当館の建築は、新潟市出身の前川國男（1905-1986）。フランスでル・コルビュジエに学び、戦後日本の近代建築を代表する一人です。最晩年に設計された新潟市美術館は、一体として構想された西大畑公園とともに、前川のふるさとへの思いが込められた作品。「100年もつ建築を」という設計当初の言葉どおり、今回の改修ではその外観を損なうことなく、新たな機能を加えました。そこに軽やかなサインをしつらえたのは、『キューピーハーフ』の広告や雑誌『流行通信』等のデザインで知られる服部一成。美術館のロゴも手掛けた若々しい感性から生まれた、白い額縁のようなサイン、壁から飛び出してきたような遊び心あるシンボルマークが、重厚な建築を生き生きと見せています。また、美術館リーフレットも、服部の手により生まれ変わりました。

Ⅱ 新たな運営方針下での事業展開。

リニューアルに先立ち、2013年には、塩田純一館長のもと、新たな運営方針を策定。今回の改修工事は、この理念を実現するためのハード面の第一歩ともいえます。

運営方針 政令市にふさわしい、市民に開かれた個性あふれる美術館

1. 発見する美術館

「あるもの（館蔵品を含む地域の多様な文化資源・自然環境）」を活かし、新たな知を掘り起こす、「発見する美術館」新潟市美術館は、開館以来、近現代の優れた作品を収集・展示してきました。こうして培われたコレクションに加えて、新潟市は地域の多様な文化資源や豊かな自然環境に恵まれています。これら先人たちの遺産や自然の賜物である環境を常に意識し、「あるもの」を活かすとともに、埋もれている知を掘り起こし、光をあて、独自の発信をしていきます。「みる」ことを通じて、新たな価値を「発見する美術館」をめざします。

…当館ならではの視点に立った展覧会にご注目！

2. 学べる美術館

教育普及の事業を通じて、あらゆる世代の市民が「学べる美術館」

学校教育との連携を通じて、新潟の未来を担うこどもたちが美術に触れる機会を積極的に設け、想像力と感受性を養います。また、「つくる」ことを体験するワークショップ、美術について「語る」美術講座やギャラリートークなど、多彩な教育普及プログラムを通じて、「市民の学習の場」を一層充実させます。あらゆる世代の市民が美術を通じて世界と人間について「学べる美術館」をめざします。

…学校向けプログラムのほか、夏休み子ども講座、大人もナルホドの講座も充実

3. 生きている美術館

さまざまな芸術が交差し、訪れるたびに心躍る「生きている美術館」

美術品を静かに鑑賞するだけではなく、音楽、ダンス、文学、映画、デザイン、ファッションなど、さまざまな芸術が交差し、アイデア豊かなイベントがにぎやかに繰り広げられる場。訪れるたびに心躍るなにかに出会える、そんないつも動いている、「生きている美術館」をつくりだします。

…ミュージアムコンサートや新しいスペース「ラウンジ N」の企画にもご期待ください

4. つながる美術館

市民同士、地域の文化施設相互が「つながる美術館」

美術館は市民のひとりひとりが未知の作品世界や作者と出会う場であると同時に、市民同士が出会い、交流する場でもあります。そうしたつながりは次々に外へ向かって広がっていくはず。美術館は自らを外に開き、新潟市の他の文化施設、民間の諸機関とつながり、連携し、地域全体の文化振興に貢献していきます。…フルマチアートスタジオなどと連携しながら街との絆も深めていきます

5. 信頼の美術館

高い質を保ち、市民が誇れる「信頼の美術館」

美術館にとってあたりまえのこと。市民の宝である収蔵品を安全に管理し、未来に伝えていくこと、展示室の環境を美術品にとって安定した良好な状態に保つこと、こうした美術館活動の根幹を成す業務を確実に遂行していきます。ハード、ソフト両面において、高い質を保ち、国内外から信頼され、市民が誇れる美術館を実現します。…改修後も環境維持に努め、わかりやすい運営を目指します

Ⅲ 気になる、リニューアル後の展覧会は。

改修により壁面も美しくなった展示室では、海外からの大型展覧会、郷土の歴史に光を当てるもの、アーティストと人々と交流する新しいタイプの展覧会など、さまざまな切り口の企画展が行われます。これにあわせ、コレクション展でも、4200点を超える所蔵品をフルに生かしながら、新鮮な観点からテーマを設定します。

新潟市美術館開館 30 周年記念

リバプール国立美術館所蔵 英国の夢 ラファエル前派展

7月19日(日) → 9月23日(水祝)



19世紀後半、ヴィクトリア女王の時代にイギリスで活躍したラファエル前派。彼らはルネサンスの巨匠ラファエロよりも以前の芸術に立ち帰ることを目指して結成されました。グループとしての活動こそ短命でしたが、それぞれに秀でた才能をもつ若者たちは、美術学校や室内装飾など活躍の場を広げていきます。本展では神話や伝説を題材にした作品を多数展示。題材に関する歴史的な裏付けと、モチーフを自然に忠実に描きこむ技術によって、遠い過去のようにありながら、あたかも自分まで作品世界の一員であるかのような感覚が味わえます。ラファエル前派の描いたリアリティのある夢の世界を新潟市美術館で体感してみてください。(学芸員 高橋りほ)

ダンテ・ゲイブリエル・ロッセッティ《シビラ・パルミフェラ》1865-70年 油彩・カンヴァス © Courtesy National Museums Liverpool, Lady Lever Art Gallery

新潟市美術館開館 30 周年記念

川村 清雄 展

11月3日(火祝) → 12月20日(日)

川村清雄の祖父・川村修就(ながたか)は、初代新潟奉行などを歴任した、新潟ともゆかりの深い人物。そして清雄は、明治期の日本人として最も早い時期に渡欧し、極めて高い水準の油彩技法を身につけた画家です。清雄が正面から取り組んだのは、「日本人の描く油絵とは、どういうものであり得るか／あるべきか」という問題でした。彼の作品は、東と西の出会いと混ざり合いの、非常に興味深い達成を示しています。一見して油絵には見えないような、川村清雄の不思議な世界をお楽しみ下さい。

(学芸員 藤井素彦)

川村清雄《徳川吉宗像》明治25年(1892)、徳川記念財団蔵



アナタ に ツナガル

2016年2月13日(土) → 4月10日(日)



TATSUMI ORIMOTO
Performance Carrying a baby pig on my back, June 13, 2012,
Toyama Farm, Shimotsuma-City, Ibaraki, Japan

たとえば福祉問題のように、美術館とは縁遠く見えるテーマを取り上げ、その「向こう側(あなた)」にコンタクトしようとする表現を通して、他者とつながる術としての美術を考えます。折元立身(1946-)は、アルツハイマー病の母を介護する日常から、力強くユーモアと愛情に満ちた〈ART MAMA〉シリーズを生み出しました。フランスパンを顔にくくりつけた〈パン人間〉、動物をパートナーとしたシリーズに加え、新潟では視覚障がい者とのコラボレーションに挑戦します。一方、人と社会の関係性を多様なメディアを用いて表現する岩井成昭(1962-)は、新潟を舞台に「家とは何か」を問う新作に取り組みます。新潟市の行うアーティスト・イン・レジデンス事業との協働により、中心商店街にある「フルマチアートスタジオ」をベースキャンプとして、リサーチ、制作を行う予定です。そのほか市内の障がい福祉施設から生まれた作品も展示予定。アートとは、すぐそばの「アナタ」とつながろうとする営みだということ、再認識する機会となるでしょう。(学芸員 荒井直美)

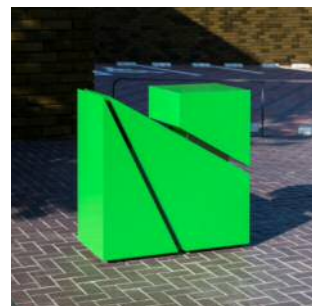
■ つながる・つながる。秋には Facebook も始動予定！

■ 見逃せない、コレクション展ラインナップ。

コレクション展Ⅰ

Hi, stories! ハイ、ストーリーズ! 7月19日(日) → 10月9日(金)

当館のこれまでの歩みを、「たてもの」と「コレクション」の二つに着目して読みひらく展覧会です。当館を設計した前川國男(1905-1986)と、ロゴ・シンボルマーク、サインをデザインした服部一成(1964-)。二人の仕事を中心に、美術館の建物にまつわるエピソードを紹介します。また、約4,200点の所蔵品からは、「物語」のような世界観を持つ絵画・版画や、特徴的な来歴を有する作品を展示。会期中の9月13日には、服部氏と、アート・建築・デザインのプロデュースに携わる安東孝一氏(アンドンギャラリー)のトークイベント「美術館でデザインを考える」も開催。(担当学芸員 星野立子)



服部一成《新潟市美術館シンボルマーク》



近藤浩一路《城趾白雨》1928年頃

コレクション展Ⅱ

東と西が会うとき

10月14日(水) → 2016年1月17日(日)

同時開催の「川村清雄展」にちなみ、東洋/日本と西洋の「出会い」をテーマに所蔵品を紹介します。黒田清輝を通じて同時代フランスの外光派表現を学んだ二人の洋画家、近藤浩一路と安宅安五郎。海外体験から作品のインスピレーションを得た横山操や阿部展也。「日本画とは何か」という問いに向き合った「パンリアル美術協会」の星野真吾。日本美術の伝統と精神を新たな切り口で作品に取り入れた元永定正、李禹煥らの戦後美術などを通じて、東西文化の多様な混ざり合いをご覧ください。会期中、**サクソと箏によるコンサート**も開催予定。

(担当学芸員 上池仁子)

コレクション展Ⅲ

悪い絵?

2016年1月22日(金) → 4月3日(日)

かつて「悪」とされた作品が、現代では異なる評価を得ている例は少なくありません。これは、美術において「良し悪し」の価値観が時代によって変わりを示しています。かつて「退廃芸術家」と呼ばれたエルンストや、「きたない絵」と称された甲斐庄楠音の作品はその一例です。一方で浜田知明や阿部展也は、戦争という、人間の「悪しき」側面を描き出しました。本展が、「悪」という言葉から美術について考える機会となれば幸いです。

(担当学芸員 山岸亜友美)



阿部展也《「飢え」より》1948年



甲斐庄楠音《黒衣の女》1926年頃

IV デザインする美術館。30周年記念刊行物

生まれ変わったのは施設だけではありません。きれいになった美術館にふさわしく、美術館から発信される印刷物も装い新たに。もっとこれからの美術館の姿を伝える、より一層、来館者との距離を縮める、そんな印刷物が続々刊行予定です。

■ 新たなる自己紹介、美術館リーフレット&概要パンフレット。

30周年を記念し、当館の概要をまとめた広報物を刷新しました。来館者向けに館内をご案内するリーフレットは、**日本語のほか、英語、中国語、韓国語、ロシア語と5ヶ国語**をご用意。新潟に住んでいる外国人や観光客に、もっと気軽に美術館へ足を運んでいただけるよう配慮しました。また設備概要など、より詳細に機能面を紹介するパンフレットは日本語と英語の2種類を作成。いずれもロゴ・シンボルマークをデザインした服部一成のデザインによるものです。

【服部一成 はっとり・かずなり】グラフィックデザイナー

1964年東京生まれ。1998年東京藝術大学卒業後、ライトパブリシティ入社。2001年4月よりフリーランスのグラフィックデザイナー、アートディレクターとして広告、書籍、雑誌、パッケージ、CIなどを手がける。代表作は『キューピーハーフ』の広告、雑誌『流行通信』など。主な受賞に東京ADC賞、亀倉雄策賞、原弘賞。毎日デザイン賞。



■ 前川國男の建築、という最大の作品に親しんでもらうために。

施設改修にあわせ設計者である前川國男の業績を紹介するパネルを新設（これも服部のデザイン）。さらに今井智己の撮りおろし写真を、新潟で活躍する白井剛暁がデザインした**パンフレット「前川國男新潟から新潟へ」**を刊行します。シンプルな言葉で前川建築のエッセンスを伝える保存版です。無料。

【今井智己 いまい・ともし】写真家

1974年広島県生まれ。1998年東京芸術大学美術学部芸術学科卒業。森・街路・部屋など日常的な風景ながらも静謐さを混えた作品を発表。近年は可視・不可視に関心を置き、福島第一原発をテーマとした『Semicircle Law』（2013年）や、見開きの一方にスナップ写真を、もう一方に点字を接写した写真を配した『A TREE OF NIGHT』（2012年）などの作品集を出版している。国内のみならず海外の展覧会にも参加。

【白井剛暁 しらい・たけあき DESIGN DESIGN】アートディレクター

1975年、新潟県三条市生まれ。新潟デザイン専門学校卒業後、デザイン会社等に勤務。2011年に独立し、DESIGN DESIGNを設立。新潟ADCグランプリを3度受賞（2015、2014、2008）するほか、JAGDA年鑑JAGDA賞（2013）にノミネートされる。拠点を新潟に置き、質の高い活動を展開している新進デザイナー。

■ まだ見ぬゲストに贈る、美術館だより[WAVE]というツール。

美術館だよりのあり方も、時代に合ったスタイルをコンセプトから練り直しました。答えは、**地元のクリエイター・テクスファームとのコラボレーションによるフリーペーパー**スタイル。これまでになかったかたちで、美術館になじみのない、街の若者たちにもアピールすることを試みます。

【TEXFARM テクスファーム】

自分たちの住む街を好きになろう、そのよさを発見しよう、というCOOL LOCAL（クールローカル）の理念を謳い、1999年に設立、当時まだ珍しかったフリーペーパー事業に着手する。2002年伝説的なフリーペーパー「新潟美少女図鑑」創刊。地元の街で暮らす女の子を、地元のサロンがヘアメイクし、地元のカメラマンが地元の風景をバックにロケを行うスタイルで一躍知られるところとなる。フリーペーパー、WEBコンテンツなどの制作事業を展開中。

■ 美術館としての基本に立ち返る。10年ぶりの所蔵品目録。

長らく編纂が待たれていた、30年分のコレクションを収めた所蔵品目録をついに刊行します。コレクションの基礎データを網羅した和英対訳版。

V まだまだある、こんなこと、あんなこと。

■ 30周年のお礼をこめて、【30・30・30】のプレゼント。

30周年を記念して、ご来館のお客さまにオリジナルポストカードセットをプレゼントします。

チャンスは3回！ 7月30日(木)・8月30日(日)・9月30日(水)

受付にてチケットをお求めの際、**各日先着30名さま**が対象となります。

■ 美術館で、夏の宵を楽しむ。【夜間開館】

真夏の夜、夕涼みがてら美術鑑賞はいかが？ **8月10日(月)～8月16日(日)**は**20:00**まで延長開館！帰省したご家族そろって、ぜひお立ち寄りください。コンサートも実施します。

〈おんがくの夕べ〉 各回 18:30 開演 (約 45 分)。事前申込不要。当日直接展示室口ビーへ。

8月10日㊸・11日㊸ 声楽 笹原美香 ピアノ 岩下周二

8月14日㊸ ピアノ 関敦子

8月15日㊸ ピアノ 関田桂子 チェロ 大石航

■ 服部一成×安東孝一 ANDO GALLERY、美術館のデザインを語る。

9月13日㊸ 14:00～ トークイベント「美術館でデザインを考える」 当館2階 講堂にて美術館のロゴデザイン、サインシステムについてのエピソードが聞けるチャンスです。開催中のコレクション展 I 「Hi, stories!」でも前川國男の建築と服部一成のサインについて特集展示。ぜひ合わせてお楽しみください。

■ 東と西の楽器が出会う、異色の顔合わせによるコンサート。

11月28日㊸ 開演 19:00 (開場 18:30) 当館常設展示室にて

■出演 川嶋哲郎 (サクソ・フルート)・竹澤悦子 (箏・地歌三味線)

■定員 80名 (全席自由) ■有料公演 ※チケットは事前に当館事務所にて販売

コレクション展 II 「東と西が出会うとき」にちなんだコンサート。プログラムには、日本の近代文学を取り入れた作品や、親しみやすい日本の歌のジャズアレンジなどを予定しています。

■ 学校向けの新しいプログラム「ARTRIP アートリップ」。

これまでの事業をバージョンアップ、学校の先生方と当館学芸員が協働して鑑賞の授業を行います。学芸員が学校を訪問し事前レクチャーを行ったのち、団体で来館。ホンモノを前にしての体験をより深めていきます。本年度は8校で実施します。授業終了後、記録集を作成・配布予定。

美術館の HP は随時更新中！ 取材のご希望はお気軽にお知らせください。

新しいステージへ。新潟市美術館の30周年。

■ 新潟市美術館 ☎ 025-223-1622 ✉ museum@city.niigata.lg.jp